稚内港湾事務所工事安全連絡協

安全な施工へ研鑽積む

第3回CPD講習会を開催

【稚内発】稚内港湾事務所工事安全連絡協議会（会長・千葉不二夫稚内開建稚内港湾事務所長）は九月三十日、稚内建設協会で第三回CPD講習会を開催した＝**写真**＝。講師を務めた稚内労基署の本持仁史署長が、港湾工事における労働災害発生の原因やその対策などについて講演。参加者は、管内の主要工種の一つとなっている港湾工事において、災害の発生防止に向けて研鑽を積んだ。

工事の安全かつ円滑な推進に万全を期すため、工事安全に関する意識の高揚と知識の習得を図ることが目的。建設業者から二十七人、港湾事務所から五人が参加した。

はじめに、会長の千葉所長があいさつ。施工体制の点検をテーマにした第二回や今回のテーマが工事安全であることを伝え、「現場を監督する立場の皆さんはもちろんのこと、工事安全について作業員一人ひとりが再認識し、現場の安全教育を充実させていくことが大切」と訴えた。

最後に、本講習会を通して、「工事安全をさらに推進し、事故を起こさないという決意のもと、工事の後半戦を迎えてほしい」と呼びかけた。

続いて、本持署長が、「港湾工事における最近の労働災害の発生状況、その原因と対策について」と題して講演。この二十年間のうちに発生した港湾工事における災害事例をもとに、①海中転落災害②クレーン災害③潜水作業中の災害―などの防止に向けた具体的事項を解説した。

空知総振局東部安全連絡協が総会

新会長に杉田氏を選出

研修会開き安全講話等も

【岩見沢発】空知総合振興局産業振興部東部安全連絡協議会は九月三十日、空知建設業協会で研修会・総会を開催した＝**写真**＝。総会では新たに㈱但野三興の杉田貢社長を新会長として選出したほか、安全パトロールなどの事業計画を決定した。

六十二人が参加した研修会では、はじめに里舘幹雄会長（宮脇大木建設㈱社長）があいさつ。これから日照時間の減少や気温が低くなることから、「健康に留意し、無事故・無災害で終われるよう取り組んでほしい」と呼びかけた。

事務局から安全パトロール実施における講評等について発表したあと、東部耕地出張所の大沼広行所長が講話。「追い込み期に入るので、安全管理体制のより一層の充実や交通事故に注意してほしい」と述べるとともに、農業農村整備事業予算の動向等について説明した。

続いて、岩見沢労基署の高倉法夫次長が安全講話、岩見沢警察署の山田直樹交通課企画規制係長が交通安全講話を行った。

空知総合振興局産業振興部 東部安全連絡協議会
研修会・総会
交通安全

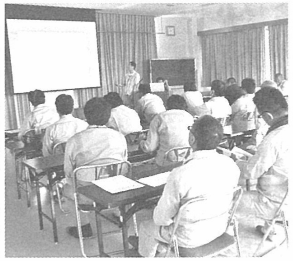
研修会後の総会では、二十五年度の事業報告や収支決算、監査報告を行った。

二十六年度事業計画の審議では夏と秋の年二回、安全パトロールを実施することなどを決定。役員改選も行い、会長に杉田氏、副会長に芝田正人氏（谷村工業㈱社長）、中村拓哉氏（福中建設㈱社長）を新たに選出するなど二十六年度役員を決めた。

災復の初動体制等学ぶ

室建浦河道路安全連絡協

第6回勉強会で研鑽積む



【浦河発】室蘭開建浦河道路事務所管内請負工事安全連絡協議会（佐藤順也会長）は九月二十六日、浦河町生涯学習センターで第六回目となる勉強会を開催した。協議会メンバーやコンサルタント、請負業者など約三十人が参加。

災害発生時において迅速な対応をするため、復旧工事を進める初動体制について研鑽した。

十勝沖地震から十年。節目の年を迎えて災害発生時の緊急対策を学ぶことを目的とした第六回勉強会は、講師の浦河道路事務所・阿部幸康副所長が、「災害発生時における現場対応の留意点と写真撮影」と題し講話。災害発生時の対応や、被災直後の被災状況や原因が伝わる写真の撮影について学んだ。講話のあとには、実際に撮影を行うなど、緊急時の対応を学んだ。

佐藤会長は「学んだことを生かし、いつ起きるか分からない災害に備えてほしい」と話していた。

受・発注者がともに研鑽

上川総振局北部耕地出張所

品質向上目指し研修会開く

【旭川発】上川総合振興局北部耕地出張所はこのほど、農業農村整備事業工事担当者合同研修会を実施した＝**写真**＝。同出張所管内の農業農村整備工事を担当する現場代理人、主任技術者と出張所職員計三十二人が参加。工事の品質向上に向けて、受発注者一丸となって研鑽を深めた。

はじめに先崎晃久所長があいさつ。公共事業予算の縮減などにより低コストで効率的な事業執行が求められている現状にふれた上で、「良質な成果をあげるために監督員との意志疎通を図って」と呼びかけ、きたんのない意見交換に期待を寄せた。

引き続き研修に入り、高橋幸三次長が「工事現場の品質向上に向けて」と題して講話。工事施行成績評定を現場の品質向上につなげるため、どのような点を評価するのか具体的に説明した。また、赤坂佳紀主査は「工事現場での安全対策と施工体制について」、小野寺稔尚主査は「集中管理孔を利用した地下かんがいシステムについて」と題して、それぞれ講話した。

意見交換会は、四班に分かれて実施。業務軽減の方策をテーマに討議し、最後に各班の意見をまとめて発表を行った。

同出張所では、「今回の研修会を高品質な工事につなげ、農家をはじめとする関係者の期待に応えていきたい」と話している。

“点検・確認・再確認”を

明盛建設が秋季安全大会

無事故・無災害の達成誓う

【釧路発】明盛建設㈱（弟子屈、藤田利道社長）は九月二十七日、同社で秋季安全大会を開催した＝**写真**＝。社員三十人ほどが参加し、スローガン「災害は慣れと過信と油断から　ゆとりを持って一呼吸〝点検・確認・再確認〟」のもと、無事故・無災害を達成することを胸に誓った。

冒頭、藤田社長があいさつ。「作業手順書を確実に守り、事故防止に努めてほしい」などと呼びかけた。

引き続き、一般講習を行い、山崎義一常務と成澤保夫営業部長が交通安全や健康管理などについて説明した。

このあとの講話では、弟子屈警察署の地域・交通課長が交通事故の実態について、弟子屈町役場の保健師が健康管理について、情報を提供した。

最後に、従業員代表の會田貞義氏が「人命尊重という崇高な基本理念のもと労災や交通災害防止の活動を推進し、事業の発展に貢献する」などと声高らかに宣誓。一同は、無事故・無災害達成への意識をあらためて高めていた。

最後に製品管理部の前田浩明製品課長が、無事故・無災害への決意を力強く宣言し、安全大会を締めくくった。

危機感共有し事故撲滅

北央道路工業が安全大会

初の秋季開催に140人参加

【岩見沢発】北央道路工業㈱（札幌、澤口二朗社長）は九月二十八日、岩見沢市生涯学習センター「いわなび」で秋の安全大会を開催。あいさつに立った澤口社長＝**写真**＝は、工事繁忙期を迎え「事故への危機感を共有し、特に冬型事故の撲滅を目指し気持ちを一つにしていこう」と訴えた。

この時期に下請け企業・協力会社を含め、全社的な安全大会を開くのは初めて。百四十人が参加した。

澤口社長は「今回の大会は、昨年十月以降、冬場に向かって交通違反や現場内事故が増加したことを踏まえ、事故への危機感を共有し、特に冬型事故の撲滅を目指して気持ちを一つにしていこう」と訴えるとともに、七月にスタートしたセーフティラリーにふれ「残る一ヵ月間、違反ゼロにして目標を達成しよう」と協力を呼びかけた。

㈲ケイアンドエイの米口晶三氏による講演「事故事例に学ぶ危険予知」に続いて、安全環境本部の鎌田理安全課長が繁忙期に向けての安全対策について説明。また、工事本部の石窪良浩本部長が、施工中の安全管理について説明し、「作業手順の順守」「体調管理」など、安全へのポイントを挙げた上で個々における安全意識の高揚を促した。

認定証交付し心得説明

山地防災ヘルパー研修会開く

桧山振興 林務

【江差発】桧山振興局林務課は九月二十七日、桧山合同庁舎および上ノ国町内石崎地区で山地防災ヘルパー現地研修会を開催した＝**写真**＝。林務課職員が山地防災ヘルパーの心得などを説明。「もし山地災害があれば、迅速な連絡を心がけていただきたい」と要請した。

㈱海老原建設と㈱三和建設の社員二人および各町役場の職員七人が参加した。

山地防災ヘルパーとは、山地災害に関する情報を収集し、地域の人々に知らせる活動に協力する人を指す。治山事業の経験者、山地防災について専門的知識を有する人たちが、ボランティアで活動する。

室内研修では、山地防災ヘルパー認定証を交付したあと、林務課職員が山地防災ヘルパーの心得を説明。「山地災害の多くの場合はその兆候が現れている」として山腹崩壊や土石流、地すべりなどが発生しやすい条件について解説した。

道森林土木設計協会の技術専門委員が講義を行ったあと、参加者は上ノ国町石崎地区に車で移動。災害の対策後の状況を視察した。